

日本精神保健看護学会事務局：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 (株)国際文献印刷社内  
TEL:03-5389-6254 FAX:03-3368-2822 E-mail:japmhn-post@bunken.co.jp HP:<http://www.japmhn.jp>

## 第23回日本精神保健看護学会 学術集会・総会のご案内

大寒を迎え冷え込みもひときわ厳しくなってまいりました。今年は例年になく寒さも格別ですが、皆様にとって実り多き年となりますよう願っております。

来る平成25年6月15日（土）・16日（日）、京都テルサ（会場）において日本精神保健看護学会第23回学術集会・総会を開催させて頂くために、現在万端を期して学会準備を進めている最中でございます。

京都は永い歴史と伝統を持ち、精神医療・看護の発祥の地とも称され、古くは洛北岩倉大雲寺の茶屋や民家で家庭看護が行われ、また日本初の公立精神病院が設けられたところです。そこで今回、テーマを「精神看護の原点 — 叡智の伝承 —」とし、基調講演では坂田三允先生（多摩あおば病院看護部長）から「精神看護の原点 — 変わっていくもの、変わってはならないもの —」というご講演を通して、精神看護の本質を今後の看護に伝承して頂けたらと思っております。

特別講演は、中村治先生（大阪府立大学人間社会学部教授）にご登壇頂き、「洛北岩倉と精神医療史 — 精神障害者の居場所としての岩倉 —」と題して、岩倉を通して日本さらには世界の精神医療史の流れを浮き彫りにして頂き、精神看護の過去・現在・未来を通してダイナミックにお話いただきます。

シンポジウムでは、教育、研究、地域から宮本真巳氏（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科教授）、田上美千佳氏（東京都医学総合研究所心の健康プロジェクト・主任研究員）、清水美代子氏（元兵庫県精神保健福祉センター精神保健福祉専門員・保健師）、それぞれの見地からお話を頂きます。

市民公開講座は、カール・ベッカー先生（京都大学こころの未来研究センター教授）に「日本人の死生観と癒し」というテーマでご講演を賜ります。

現在、京都大会のホームページ上にて、一般演題・ワークショップの募集を行っておりますので、多くの皆様に投稿・応募していただき大会へご参加下さるようお願い申しあげます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

第23回日本精神保健看護学会学術集会

大会長 北島謙吾

## 大会テーマ「精神看護の原点 — 叡智の伝承」

大会長 北島 謙吾（京都府立医科大学医学部看護学科・教授）

日時：平成25年6月15日(土)・16日(日)

場所：京都テルサ（京都市南区東九条下殿田町70）

大会HP：<http://japmhn23.umin.jp/>

### 《会場への交通アクセス》



### 《プログラム》

#### ●第1日目 6月15日(土)●

受付 (9:00開始)

9:30-10:20 大会長講演

「臨地・教育から学んだ精神看護の原点と叡智」

大会長：北島謙吾（京都府立医科大学）

司会：永井優子（自治医科大学）

10:30-11:45 基調講演

「精神看護の原点

—変わっていくもの、変わってはならないもの—」

演者：坂田三允（多摩あおば病院）

司会：北島謙吾（京都府立医科大学）

12:00-12:50 ランチョンセミナー

13:00-14:30 特別講演

「洛北岩倉と精神医療史

—精神障害者の居場所としての岩倉—」

演者：中村 治（大阪府立大学）

司会：鷹野朋美（日本赤十字看護大学）

14:45-16:45 シンポジウム

「精神看護の原点

—臨床・研究・地域の叡智を伝承する—」

座長：瀧川 薫（滋賀医科大学）

池邊敏子（千葉科学大学）

シンポジスト：

宮本真巳（東京医科歯科大学大学院）

田上美千佳（東京都医学総合研究所）

清水美代子（元兵庫県精神保健福祉センター）

17:00-18:15 ワークショップ

#### ●第2日目 6月16日(日)●

受付 (8:30開始)

9:00-11:10 一般演題

11:30-12:15 総会

13:00-14:15 ワークショップ

14:30-16:00 市民公開講座

「日本人の死生観と癒し」

演者：カール・ベッカー（京都大学）

司会：寶田 穂（大阪市立大学大学院）

### 《一般演題およびワークショップの募集》

#### 1. 演題の申し込みについて

一般演題は、口演での発表しております。

演題は、学術集会HPからのオンライン登録のみ受け付けいたします。必ずご本人に確認できる電子メールアドレスが必要になります。郵送による応募は受け付けませんので、ご注意ください。

\* 演題採択結果につきましては、3月中に筆頭発表者にご連絡いたします。

#### ■演題応募資格

発表者・共同研究者は全て本学会会員であることが必要です。非会員の方が本学術集会で発表を希望される場合は、日本精神保健看護学会HPの「入会のご案内」を参照いただき、入会申し込み手続きを行ってください。

(日本精神保健看護学会入会ページ)

<http://www.japmhn.jp/membership/>

## ■オンライン登録についての注意

- \*演題名の制限文字数は、全角70文字です。
- \*抄録は、全角で3,000文字まで、図表がある場合は2,010文字までとなります。(登録可能な図表形式はJPEGもしくはGIFとなります。)
- \*登録可能な最大著者数(筆頭発表者+共著者)は20名、最大所属施設数は10施設です。

## ■演題登録IDとパスワード

- \*演題が登録されると同時に、演題登録IDが発行されます。
- \*パスワードと演題登録IDは、抄録内容の修正や演題の採否確認、お問い合わせ時に必要となります。

## ■査読について

- 学術集会では、一般演題の査読を行います。査読は、倫理的配慮及び抄録としての適切性に焦点を当てて行います。
- \*研究において実施された倫理的配慮の具体的な内容を明記してください。大学や施設の倫理委員会の承認を得ていれば、その旨の記載をしてください。

## 2. ワークショップの申し込みについて

### ■開催予定日時

2013年6月15日(土) 17:00-18:15  
6月16日(日) 13:00-14:15

開催予定: 15テーマ

- \*ワークショップを実施する部屋は、施設の関係上最大162名から最小36名と収容に違いがございます。ご希望に沿えない場合もございますので、予め了承ください。

### ■応募要領

学術集会HP「ワークショップ」のページにある申し込み用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールにてお送りください。

- \*ワークショップの代表者は学会員とします。学会員以外の方は「協力者」として、ワークショップの企画にご参加いただけます。

\*企画採用の結果は、2月下旬にお知らせいたします。

## 3. 学術集会参加申し込み方法

第23回学術集会への参加を希望される方は、学術集会HP「事前参加登録」ページにて「事前参加登録」ボタンより参加登録を済ませた上で、参加費のお振り込みをお願いいたします。

※HPの登録と入金の両方が確認されない場合、事前登録とみなされませんのでご注意ください。

## ■学会参加費

### ・事前参加登録

#### 事前参加登録期間: 2013年4月26日(金)

会員	7,000円
非会員	8,000円
学生(大学院生は除く)	3,000円

### ・当日受付

会員	8,000円
非会員	9,000円
学生(大学院生は除く)	3,000円

## ■参加費のお支払いについて

### 払込期限: 2013年4月30日(月)(必須)

- \*専用の郵便振替用紙又は郵便局備え付けの払取扱票(青色)によるお支払いのみとなります。なお、払込手数料は恐れ入りますが各自ご負担くださいようお願いいたします。

口座番号: 00940-3-164290

加入者名: 第23回日本精神保健看護学会学術集会

- \*5月1日(火)以降に入金手続きいただきましても、事前参加登録としてお受けできませんので、ご注意ください。

## 《宿泊および昼食について》

各自で手配して頂けますようお願いいたします。京都テルサ館内にはレストランやカフェサロンがございますが、京都駅周辺にも飲食店が多数ございます。

## 《お問い合わせ先》

### ◎日本精神保健看護学会

第23回学術集会・総会 運営事務局

株式会社コンベンションリンクージ内

TEL: 075-231-6357

FAX: 075-231-6354

E-mail: japmhn23@c-linkage.co.jp

### ◎日本精神保健看護学会

第23回学術集会・総会 事務局

京都府立医科大学医学部看護学科

(担当: 占部、三橋)

TEL & FAX: 075-212-5444

# 「健康と復興まちづくりを考えるシンポジウム」報告

災害支援特別委員会 田 中 美恵子  
小 山 達 也

2012年11月17日に、宮城大学主催の南三陸町コミュニティ復興支援プロジェクト「健康と復興まちづくりを考えるシンポジウム」が、宮城大学大和キャンパスで開催されました。日本精神保健看護学会は、共催団体の1つとして、分科会Ⅲ「これからのかの心のケアのあり方を考える—震災から1年半が経過した今、被災者の心のケアと課題」を開催しました。

分科会では、精神保健福祉士の松田聰一郎氏（ふくしま心のケアセンター）、保健師の赤平美津子氏（岩手医科大学医学部災害・地域精神医学講座）、臨床心理士の樺原祐子氏（みやぎ心のケアセンター）に、東日本大震災後の活動についてご報告いただき、精神科医の加藤寛氏（兵庫県こころのケアセンター）から指定発言をいただきました。

松田氏からは、地震、津波の被害に加え、現在も原発の問題が継続している福島県の特徴を交えながら、住み慣れた土地から離れて生活することから来る問題や家庭問題などの相談が多いこと、放射能の問題は話題に出しにくい状況があることなど、現状での活動をご報告いただきました。

赤平氏には、心のケアチームの活動に参加され、心の問題について直接的に問うのではなく、血圧測定や身体不調を尋ねる中で話を聞くことの大切さ、震災以前の地域保健活動が継続的に行えるように支援されたことをご報告いただきました。多職種が連携する中で、看護職の生活全体や健康面を観察する力の持つ強みについてお話ししました。

樺原氏は、アウトリーチ型の支援活動を行う中で、従来の相談者が面接室に訪れる形の支援との違いを感じながら実践されているというお話をいただきました。被災者の中には、助けを求められない人や、傷ついた気持ちを表現できない人が多くいる一方で、回復力を持つ被災者との関わりの中で希望を感じているとご報告いただきました。

加藤氏からは、まず震災後1年半という短い期間の中で、組織的な活動が行われ、その振り返りが行われることへの敬意が述べられました。阪神・淡路大震災後の兵庫県こころのケアセンターの立ち上げのご経験をお話しいただき、心のケア活動を継続するために、スタッフのモチベーションを維持すること、できていることを評価することの大切さをご示唆いただきました。また今後こころのケアセンター間での連携を作っていくことについてご提言がありました。

本分科会は、復興を進めている三県での活動が共有される貴重な機会となり、震災後の心のケアだけではなく、これから地域での心のケア活動の方向性も指示する内容となりました。貴重な機会をくださった宮城大学の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

なお、講演内容については、ホームページに掲載させていただきますので、是非ご覧ください。

(災害支援特別委員会：阿部幹佳、安保寛明、宇佐美しおり、大川貴子、木戸芳史、小山達也、高橋葉子、田中美恵子、近澤範子、長谷川雅美、濱田由紀、山内典子)



# 投稿論文チェックリストが 一部改訂となりました

これまで、投稿論文の表紙に記載することとなっていた、著者名、所属機関名、会員番号等の投稿者が特定される内容について、削除すること等です。学会誌およびWeb上の投稿論文チェックリストをご確認ください。

## Twitter 導入

広報委員会では、2012年12月よりSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の1つであるTwitterのアカウントを開設し試験運用を実施しています。

Twitterは無料かつ簡便で、東日本大震災後には災害時の通信インフラとしても有用であることがクローズアップされたことでユーザー数が激増し、日本での利用者数は約3,000万人（詳細は非公表）とも報道されています。また、個人としての利用の他に、多くの企業や団体が広報手段として利用していますが、厚生労働省や気象庁のような中央省庁や、東京都や横浜市などの地方自治体も、部局別にアカウントを取得し広報活動に積極的に利用しています。学術団体に目を移すと、2013年1月現在、日本看護系学会協議会（JANA）に加盟している37看護系学会のうち4学会がホームページ以外にいすれかのSNSを活用しており、日本学術会議や日本精神科看護技術協会もSNSを利用した広報活動を行っています。

これまでにはホームページに新着情報を掲載しても、ユーザーは自ら検索しない限りその存在を知ることができませんでしたが、TwitterのようなSNSを利用することにより新着情報の存在をいち早く知ることが可能になります。しかし、SNSを利用した情報発信は有用である一方で、発信内容によっては団体や個人の信用やブランドイメージを傷つけてしまう可能性があるため、発信内容には細心の注意を払う必要があります。プライバシーに関する問題も考慮し、広報委員会では利用者側の匿名性が比較的確保しやすいTwitterを利用し、当面は試験運用としてホームページに新着情報が掲載された時に限り発信する予定です。

Twitterアカウントをお持ちの方は、ぜひ「フォロー」をお願い致します。まだアカウントをお持ちでない方も、これを機にTwitterを始めてみてはいかがでしょうか？



### ツイート

日本精神保健看護学会 (JAPMHN) @japmhn  
日本精神保健看護学会 (JAPMHN) のTwitterアカウントを作成しました。ただいま試験運用中です。学会ホームページ更新情報を中心で発信していきますので、会員・非会員問わず、ぜひフォローして下さいね。  
http://t.co/CG61Yr

1 ツイート 4 フォロー 5 フォロワー

フォロー

### ツイート

日本精神保健看護学会 (JAPMHN) @japmhn  
日本精神保健看護学会 (JAPMHN) のTwitterアカウントを作成しました。ただいま試験運用中です。学会ホームページ更新情報を中心で発信していきますので、会員・非会員問わず、ぜひフォローして下さいね。  
http://t.co/CG61Yr

1 ツイート 4 フォロー 5 フォロワー

フォロー

## 【日本精神保健看護学会 会員システム登録依頼】

こちらに必要事項をご記入し、FAXにて事務局にご送信いただけますと、事務局にて会員様の情報をシステムに登録し、学会のマイページに反映されます。

事務局にて会員システム（マイページ）へのご登録をご希望される方は、下記の事項に、もれなくご記入の上、FAX下さいますよう、お願い致します。

\*なお本情報は、本学会システム登録以外の用途に用いる事はございません。

### 〈会員番号〉

### 〈ご 氏 名〉(フリガナ)

### 〈ご 所 属〉

### 〈送付先住所〉(学会誌、ニュースレターなどの送付先)

自宅  所属先  (どちらかに○をつけて下さい)

〒 \_\_\_\_\_

### 〈お電話番号〉

自宅  所属先  (どちらかに○をつけて下さい)

(                )

### 〈メールアドレス〉(学会からのお知らせ等の送信先)

自宅  所属先  (どちらかに○をつけて下さい)

@

【FAX送信先】 03-3368-2822

株式会社国際文献社内 日本精神保健看護学会事務局

## 理事会報告

昨年の6月より新理事会体制となり、これまで2回の理事会が開催されました。理事会では、学術団体としての活動の促進、政策的提言、学会員の皆様へのサービスの向上、災害支援等の社会的貢献、学術集会の開催などについて検討しています。本学会には6つの委員会があり、各委員会が中心となって、学会の諸活動を展開しています。

12月19日に開催された第2回の理事会では、学会誌へオンライン投稿方法の改善、Twitterの試験的実施、今後の研修会計画、研究助成の申請状況、次回の診療報酬改定に向けた活動、他の学術関連団体との連携、災害支援に関する活動などについて、報告および審議が行われました。また、平成25年度の学術集会（北島謙吾大会長、京都）について、松本実行委員長よりプログラムの企画進行状況等の報告がありました。

精神看護分野で唯一の学術団体として、会員の研究促進に繋がる活動が重要であることから、その活動内容について議論され、その一環として、研究計画の立て方や研究倫理など研究を支援するための研修会の企画について検討しました。また、将来的に文部省科学研究費補助金細目のひとつに「精神看護学」が位置づけられることを目指して、まずは精神看護分野の研究者は、科研費申請時キーワードに「精神看護」を記載することが必要であることなどを議論しました。また、学会誌への投稿数が増加してきており、引き続き査読システムの迅速化に取り組むこと、災害支援活動を通して全国の心のケアセンターのネットワーク作りの動きが出てきておりさらに活動を進めていくこと、などが話し合われました。

最後に会勢報告ですが、現在の会員数は1,044名（平成24年11月現在）となっております。しかし宛先不明で郵便物が事務局に返送されて届けられない方や、会費未納となっておられる会員もいらっしゃいます。所属や連絡先に変更などが生じた場合は、速やかに事務局までご連絡下さい。マイページにご登録されると、ご自分のパソコンからご自身の情報の変更を簡単に行えますので、ぜひご活用下さい。また今回は、会員様のシステム登録について、事務局で登録するためのFAX用紙を同封致しました。この用紙に必要事項をご記入の上FAXにてお送りいただけますと、事務局でシステム登録し、マイページに反映されることになります。ご協力をお願い致します。 （総務）

## ■ 教育活動委員会報告 ■

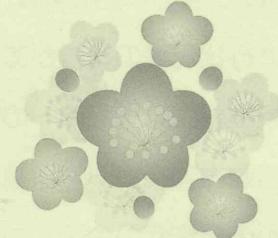
宮本 真巳

12月2日（日）、東京医科歯科大学において、シンポジウム「グループが育むエモーショナル・リテラシー」を開催した。冒頭、武井理事より、エモーショナル・リテラシー概念とその背景、グループ体験とエモーショナル・リテラシー育成との関連についてのミニ講義があった。次いで群馬病院の岩崎壮登さん、川越同仁会病院の月江ゆかりさんから、グループとの出会いの時期に体験した苦難や、グループ体験を通じてエモーショナル・リテラシーを体得していくプロセスで体験した手応えなどについて、率直に語って頂いた。最後に、指定討論者の宮本より、感情に焦点を当てるなどをめぐる困難を克服するための手掛けりに関する問題提起と併せて、お二人の報告にコメントを述べさせて頂いた。

看護科学学会学術集会の翌日に設定したこともあるってか、120名の参加を得て活発な質疑も交わされ、参加者からは刺激に富み考えさせられることの多い催しであったとの感想を得ることができた。グループワーク、エモーショナル・リテラシーは、精神保健に関わる看護職にとって極めて重要なテーマではあるが、まだ十分に浸透しているとは言えないため、引き続き研修機会を設定していきたいと考えている。

### 【今後の予定】

- テー マ：「精神保健福祉の動向と看護職の役割」
- 日 時：3月30日（土）13時～16時
- 場 所：東京医科歯科大学（会場未定）
- 司 会：宮本 真巳（東京医科歯科大学）
- パネリスト1. 吉川 隆博（山陽学園大学看護学部）
- パネリスト2. 末安 民生（天理医療大学）



## ニュースレター原稿募集

学会では、学会員の主催する精神看護関連の活動を支援し、また、より広く交流を図れるよう、ニュースレターに掲載する原稿を広く募集しております。

皆様が主催される様々な精神看護関連の活動について、ニュースレターでの広報をご希望の際には、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・日時、参加方法、連絡先に関する原稿をお寄せください。

また、現在の精神保健医療や看護に関するご意見や問題提起、あるいは学会員の方々と共有したい情報などもお寄せいただければ幸いです。広報委員会で検討させていただき、ニュースレターに掲載したいと考えています。皆様からのお原稿をお待ちしております。

The Japan Academy of  
Psychiatric and  
Mental Health Nursing  
*News  
letter*

編集後記

▼みなさま明けましておめでとうございます。今年最初のニュースレター第66号では、6月に京都で開催される予定の学術集会をはじめ、これから開催を予定している研修会等の情報、および、開催されました研修会の報告などを掲載しております。学会では、このような情報をもっと早く会員のみなさまに届けるために、また、みなさまの声をいち早く学会活動に反映させるために、マイページやTwitterの活用を行っております。ニュースレター同様、活用いただければ幸いです。

編集委員 畠地博子 田井雅子 畠山拓也 横本 香

広報委員会 ホームページ担当：萱間 真美 ニュースレター担当：畠地 博子

(お問い合わせ先) メールアドレス : azechi@cc.u-kochi.ac.jp

TEL/FAX : 088-847-8717